

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090100191		
法人名	株式会社かいせい		
事業所名	グループホームかいせい		
所在地	北九州市門司区錦町4番26		
自己評価作成日	2019・10・17	評価結果確定日	令和2年1月14日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: http://www.r2s.co.jp
訪問調査日	令和1年11月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

20代から70代の幅広い年代のスタッフが、家訓「やさしく・たのしく・あたたかく」を目ざし、利用者個々の「こうりたい」を実現することを基本方針とし、介護に取り組んでいる。以前離職した仲間が、一人二人と戻ってきてくれ、この一年、離職もなく、安定したシフト体制で、ゆとりのある介護が実行できていると自負している。地域密着型としての役割も、近隣の幼稚園、学童との異年齢交流やご近所との関係も張りながら果たしている。レクレーションも多彩で、さまざまなボランティアの方々がご支援してくださっている。利用者の身体状況にもあるが、出来るだけ散歩をしたり、ドライブに行くなど、外気に触れる機会も持てるよう工夫をしている。年に2回計画する外食レクは、ご家族の参加をお願いしたり、毎年行う夏祭り、文化祭にも多くのご家族の参加もあり、ご本人、ご家族、地域とのかかわりも、厚く、高齢者施設にありがたない、「疎外感」は無いと。このことも自負している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成23年に開設した「グループホームかいせい」は門司港の商店街から住宅街の入り口に差し掛かる所に位置する。4階建ての2、3回に1ユニットずつあり、隣接して系列の居宅介護支援事業所がある。元の代表に縁のある土地に開設したことで、当初から地域との関係も深く、小学校や幼稚園との交流も長く、定期的にしており今では入園式に招待もされている。レクにも力をいれており、地域ボランティアも様々に支援してもらい、毎日何がしかのボランティアがきている。お茶や花、習字など、外部から指導にも来てもらい日々の変化と楽しみを持ってもらっている。事業所主催の「かいせい文化祭」は公民館を借りて公開し、作品展示は利用者の意欲にもなっている。今後も地域を支える活躍と存在感の発揮が期待される事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	近隣の幼稚園、学童との異年齢交流を踏まえた行事計画を作成、実行できるようなシフト作成する。また、近年計画される自然災害時、かいせいで何が出来るかを運営推進会議で検討し、近隣高齢者の災害時受け入れが出来るよう検討した。	元々あった理念を昨年見直し、職員とも話し合い馴染みやすいものとして、現在は「やさしく・たのしく・あたたかく」を掲げている。家族のようという思いと専門職である自戒を込めて「家訓」という伝え方にした。スタッフルームやホール、EV室など色々な所に掲示し、日誌にも記載されいつも目につくようにしている。共有と実践状況についてもアンケート調査をし、今後の実践への改善についても会議で話し合っている。	理念を見直して、日々の実践につながりつつあるが、さらにスキルをあげて質の高いサービスするために、職員のケアなどの具体的な活動につなげるために教育や研修、などの取組がなされていくことにも期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議で、地域の方々の意見を聞き、かいせいで出来ることやかいせいで力をかして頂きたいことをお願いをしている。春・秋のお彼岸にはご近所に、手作りの牡丹餅、おはぎを届けたりして喜ばれている。毎日昼食の片づけに来てくださる、ボランティアの方、レクレーションごとに支援してくださるボランティアの方がたと多くの地域の方のご支援をいただいている。	開設当初から地域との関係は深く、友好的関係を築いている。地域の運動会、コンサートなどに利用者と一緒に参加する。日頃は近くの商店街に散歩や買い物にもよく行き、地域住民とも馴染みになって気軽に挨拶を交わしている。ボランティアの支援も多く、継続されている。地域情報などは町内会長などから聞くことが多い。	自治活動があまりされていない地域のように、町内会の掃除など、地域に向けて手伝えることなどがあれば取り組みたいと考えている。実現に期待したい。認知症についての啓もう活動などの情報発信の取組にも期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	散歩や、外食レク、近隣の理美容利用など、認知症の方々と、ご近所の方々とが、触れ合える機会を多く持ち、かいせいで暮らす皆さんが地域の中で孤立しないように取り組んでいる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催される運営推進会議において、今地域での課題を話し合う機会にしている。地域包括支援センターからの発信などで、徘徊高齢者への取り組み、災害時の取り組みなどを話し合った。また、ご家族から見た「かいせい」を発信していただき、スタッフと共有し、私たちの姿勢を見直す機会にもなっている。	2ヶ月ごとに第三木曜の13時より1Fで開催し、地域包括、町内会長のほか、家族全員に案内し、3、4名が来られている。利用者が同席することもある。会議では事故、状況、スタッフ報告のほか、地域交流などについて話している。当日の課題として決めて意見などももらっている。議事録は参加者のほか、行政にも郵送で報告している。	議事録は参加されていない家族にも送ることで取り組みを知ってもらってはどうか。また、以前は警察と消防に来てもらったこともあり、参加者の幅を広げる取り組みも良いのではないかと。また、課題として地域への貢献を議題とし、参加者を通して、新たな地域の関係者への働きかけなどを検討されるのも良いのでは。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の空室状況の報告や、毎月発送する広報誌などで、「かいせい」の今を知っていただく努力をしている。	空室状況の報告はFAXで毎月行っており、北九州市役所のHPで公開されている。担当課には運営推進会議の議事録のほか、広報誌も郵送している。地域のグループホーム連絡会で地域包括の職員とは話す機会がある。一度研修で役所の職員と話す機会があった際に「広報誌見ますよ」との言葉をもらった。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修に参加し、それを伝達研修するなどしている。特に「スピーチロック」には十分に配慮する介護を心掛けている。「ない」ことが当たり前とせず、常に意識できる環境を作っている。	各ユニットのエレベーターと階段は施錠している。利用者の要望がある際は職員が同席して移動するようにしている。昨年運営推進会議内でも身体拘束廃止委員も組織し、会議を開催している。3ヶ月の内に内部での研修も企画、実施している。取組を継続していることでスピーチロックなどについても改善が見られている。外部研修参加も定期的にある。	

2019自己・外部評価表(事業所名かいせい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	「6」同様、無いことを当たり前とせず、常に意識を持てるよう、スタッフ同士の「目」を持ちたい。新聞で報道された事実を、記事で確認し、わが身を振り返る機会にしている。		
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間研修計画に位置付け、外部研修に参加し伝達研修を行う。制度は難しく、安易な発信は誤解を招く。必要に応じて、専門家の紹介を行っている。	北九州市が主催する年間研修計画に基づいて、権利擁護についての外部研修にも参加している。入居前から成年後見制度を使っている方が1名おり、外部の後見人とやり取りしている。職員も制度についての一般的な知識はもっている。説明用のパンフレットや資料も常備している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学时より、パンフレットの提示、料金表などを説明、入居時には標準契約書・重要事項説明書で説明している。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱は設置しているが、意見が入っていたことは無いが、来館者からの何気なく発信された言葉やその向こうにある真意を押し量りながら、日々の介護を見直す機会にしている。利用者から寄せられる一言にも、注意深く耳を傾け介護に工夫をしている。	1Fの来館者名簿の横に意見箱を設置している。家族や利用者とは運営推進会議や面会時に聞くことが多い。毎年4月に家族会も開き、半数程度が来られ、勉強会や事業報告を行う。面会の機会も多く、遠方の方でも年に2、3回は来られる。毎月発行するお便りの中に職員からのコメントもつけて状況の報告に役立てている。家族からあがった意見は会議で取り上げ、すぐに改善につなげ、職員の名札の着用などを行った。	運営推進会議や家族会の際に、出欠と合わせてアンケートなどを実施して、表に出てこない意見も集約してはどうだろうか。意見箱の活用として、予め意見用紙を配ることで、投函のハードルをさげて回収率を高めても良いのではないだろうか。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	昨年は、スタッフの急な退職、派遣社員の問題などあり、シフトがタイトな時もあったが、スタッフで協力し、介護の質を落とさず、乗り越えてきた。毎月開催するスタッフ会議では、全体の課題、フロア会議では各フロアの課題に取り組み、意見交換を行っている。	毎月、事業所全体でのスタッフ会議があり、終了後ユニットに分かれてそれぞれの利用者の状況などについて話し合っている。原則全員参加で話し合いを行う。職員も活発に意見を挙げており、まずは取り組んでから改善していくよう、積極的にしている。個別面談もあり、直接意見を言う事も出来、要望も反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昨年末より、スタッフの充足もあり、管理者、計画作成担当者が、フロアを離れて、それぞれの業務に取り組める時間の確保、有給消化などが、出来るような環境になってきた。地域のグループホームとの意見交換会に管理者が出席する機会が無く、同業種との情報共有は今後の課題である。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	幅広い年代層のスタッフによる介護が行なわれているが、業務に支障がある様には聞いている。人間関係も、管理者を中心に配慮がなされ、馴れ合いではない助け合いの介護が行われている。管理者を中心に各スタッフの研修計画がなされ、スタッフが不平等感を持つことがないように工夫されている。	職員は22歳～77歳まで幅広く、男女比は2:8程度である。経験も様々だが知識や経験を活かして勤務している。お互いに協力し合える空気感もあり、働きやすい職場で、一度辞めて戻ってくる職員もいる。研修などの案内もあり、勤務としての参加も出来る。休憩時間や休憩場所もメリハリをつけて確保されている。職員の能力や特技を使って、衣類のほつれを直したり、飾りつけなどに活かしている。	

2019自己・外部評価表(事業所名かいせい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	集団指導の内容を伝達研修し「人権」について意識付けをしている。日々の業務の中で、利用者個々について「利用者本位」の介護とはと意識することにより「やさしく・たのしく・あたたかく」の家訓が実現できると認識していきたい。	毎年の集団指導の講義にある人権教育の内容を内部で伝達し資料も回覧している。今年参加した認知症介護基礎研修の外部研修でも報告書を作り内部での伝達を行っている。	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修には、各研修案内を管理者が把握しスタッフ個々に、必要な研修を受講できるように工夫している。任意で研修を受けるスタッフには、休みが取れるよう、シフト作成時に配慮されている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修参加時に、他の介護職との交流を図っている。年2回の近隣のグループホームとの交流会が行われているが、シフト調整上代表以外の参加が実現できていない。3月にはぜひ現場職員の参加を目指したい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族、MSW、ケアマネなどから相談があり、入居の意思が確認でき、初回アセスメント時に、今ご本人が置かれている立場、様々な問題の把握に努める。関係機関から、医療情報、生活歴・生育歴、薬の情報等、かいせいででの生活がスムーズに始められるよう取り組んでいる。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の相談時に、かいせいのパンフレットに基づき、丁寧にかいせいででの生活を説明し、不安なことの聞き取り、説明を行い、入居後、ご家族が安心できるようスタッフ一人ひとりが、計画書に基づき業務を行なっている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居初期における、本人、家族の不安や混乱が、最小限になるようアセスメントで把握して情報を元に作成した計画書を各スタッフが理解し、具体的な介護に取組めるようにしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの生活の中で、出来る事できないことを把握しながら、生活の場面場面で、本人の持てる力を発揮できるようにしている。小さな家事(洗濯干し、洗濯物かたづけ、部屋の掃除)等取り組んでいただいている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の請求書の発送時、共に発送する広報誌に、その月のご様子を報告している。毎年一回開催する家族会では、外部講師を招き勉強会も開催する。ご家族と一緒に楽しめる企画も行い、ご家族とご本人が楽しめる時間も工夫している。		

2019自己・外部評価表(事業所名かいせい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利便性の良い、立地条件を活かし、訪問者も多い。友人の訪問を受けたり、馴染みの関係は継続している。	家族の面会のほか、同級生や隣人などの知人の来訪もあり、自由に受け入れている。友人と一緒に外出、外食される方などもある。友人に思わぬ本人の気持ちが吐露されることもあり、新たな本人の理解につながったこともある。自宅が心配な方を連れて行ったり、お寺に連れて行く支援をしたこともあった。馴染みの美容室やケーキ屋に行くこともある。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その方の性格を理解し、トラブルにならない様に、席を工夫している。認知症の特性を、他の利用者へ求めることは難しく、接点を短くしてトラブルを避けるように工夫している。		
24		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	かいせい退去後は、今後の相談に乗ったり、退去後転院先へ訪問したりと、必要な支援をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知機能やADLに個性があり、中々意向が確認できない方もいるが、ケアごとに表情を読み取り、必要な支援が出来るように工夫している。また、自己表現が出来る方には、出来るだけ対応している。	アセスメントは各ユニットの計画作成担当、フェースシートはリーダーが作成しており、アセスメントでケアチェックも行い、定期的に見直している。家族からの情報は口頭で聞き取っている。見直しは毎月のスタッフ会議で現場の意見も取り入れながら行っている。意思疎通の難しい方は表情でくみ取ったり、家族にも意見を聞いたりしている。	現在は主にリーダーと計画作成担当者が聞き取りに関わっているが、スタッフでも同じように出来るように、担当制や経験の長い職員も業務が担えるような取り組みが検討されることにも期待したい。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のアセスメントに基づき、本人の好みや趣味、習慣などがかいせいで生活後も継続できるよう工夫している		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の記録をスタッフ間で共有することによって、その人らしい生活ができるよう工夫している。また、様々なレクリエーションに参加していただく事で、日々の生活に変化がもてるようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の変化は、介護記録や申し送りで、共有確認できるようにしている。毎日の情報は日誌に記録し、フロアを超えて、スタッフ全体が共有できるようにしている。毎月のスタッフ会議において、各利用者の計画書についてのモニタリングをスタッフ全体で協議し、日々の介護やケアプランに反映させている。	プラン作成は計画作成担当者が主に行っている。モニタリングは毎月、プラン見直しが半年でその際に担当者会議を開き、家族にも参加してもらっている。プランの実施について毎日実施チェックをしており、それを元に月のモニタリングに繋げている。毎月のカンファレンスで利用者の情報共有については定期的に行っている。	プラン見直しのための担当者会議に家族が出られないこともあるが、1年や2年に1回などでの開催をあらかじめ決めて計画的に行われることにも期待したい。

2019自己・外部評価表(事業所名かいせい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の清潔状況、排泄、バイタルチェックなどあらゆる視点から、記録し申し送りをし、状況を共有している。必要時には話し合いを持ち、プランに反映させている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	年間行事で、いろいろなレクリエーションを計画している。集団レクの取り組みや、個々の状況に配慮した、個別の取り組みもしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園児との交流は、恒例行事となり、七夕まつり、敬老会、クリスマス会と訪問して頂いたり、訪問したりと交流が続いている。年に一度ではあるが、学童保育の児童の訪問も受け、交流を続けている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的には協力医の往診をお願いしているが、在宅時からのかかりつけ医に継続して診察の意向があればご家族にご協力いただいたり、担当医に往診をお願いし治療が滞らないようにしている。	希望すれば元のかかりつけ医を継続できるが、提携医は往診があるため切り替える方が多い。外部の受診は原則家族にってもらうが、事業所から支援することもある。異変時などは家族に報告し、家族が通院介助した際も情報ももらっている。非常勤の看護職員がおり、日常的な健康管理も行っている。	家族が医療連携体制に対して不安を持たないように、事業所の取り組みや報告体制について意見を確認し、今後の報告や医療体制を見直しても良いのではないだろうか。
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は隔日勤務であるが、日々の記録申し送り、連携ノートなどで必要な連携が取れるようにしている。職員は看護師が作成した、看護計画書を理解し、業務に反映させるとともに、緊急時の対応時にも的確に対応できるようにしている。協力医へ毎週水曜日利用者の状況を報告し、必要な連携を取るようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、入院に至る経緯の説明を介護職により行うと共に、サマリーを看護師により提出し、必要な情報を発信している。退院時には、MSWと連携を取り、退院後の生活が滞りなく送れるよう退院時の情報を頂くようにしている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には、契約書と共に、重度化の指針看取りの指針なども説明同意を得ている。状況の変化時には担当者会議を開催し、意向の確認をしている。昨年11月に初めて看取りを行い、協力医、ご家族、スタッフがチームとなり、ご家族の見守りの中穏やかに、旅立たれた。スタッフにも、良い経験になったと思う。	説明の上、事業所で出来る範囲の中で看取り支援を行っており、昨年初めてお一人の方を看取った。家族にも居室に泊まってもらい、最期の見送りまでしてもらえた。提携医も24時間体制で対応してもらっている。毎年の家族会の際に外部の看護師からターミナルケアについても勉強会をし、パンフレットなども配布している。	今後も看取りを行っていく可能性もあり、職員に向けてターミナルケアやメンタルヘルスケアについての研修や勉強会がなされていくことにも期待したい。

2019自己・外部評価表(事業所名かいせい)

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応は、いつでもだれでも、同じ対応が出来るようマニュアルは準備しているが、実際ともなると不安は否めない。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を年2回開催している。訓練には町内会長、ご近所の方なども参加していたるように、計画はしているが、近隣の方も、高齢・体調不良などで、ご参加いただけない場合もある。今後検討が必要。非常災害用も物品も揃えている。	年2回の内1回は、消防署からの立会いもあり、日中、夜間想定それぞれで行う。訓練時は地域の方にも案内し、毎回参加もされて水消火器なども扱ってもらっている。備蓄物として、アルファ米、総菜、水、カセットコンロなども3日分程度備えており、現在保管か場所などの見直し中である。	近くに他事業デイサービスもあり、非常時の協力体制など相談しても良いのではないだろうか。運営推進会議など同日開催して、様子を見てもらうのも時には良いのでは。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の介護の中で、利用者主体の介護、利用者本位の介護を心掛け、スタッフ間の気づきを「フロア会議」で提案、本来あるべき姿の介護が出来るようにしている。そのことは、日誌にも記載し、みんなの課題として、取り組めるようにしている。	スピーチロックの研修と合わせて声掛けや言葉かけについて、お互いに注意を払うようにしている。以前ちゃんづけしていた事に対し、家族からの意見もあり改め、今では「さん付呼称」に統一している。排泄時のチェックなど本人にだけわかるよう耳元で尋ねたり、プライバシーへの配慮もしている。	おたよりなどの写真の利用について、書面での同意を改めてもらうことで、今後に備えてはどうだろうか。
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクレーションや、行事の参加は、意向の確認をしている。無理強いはいしない。日々の生活の中でも個別の楽しみが持てるようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるものの、週単位でレクレーションに参加したり、個別にお散歩、お買い物、郵便局など、行きたいことのオーダーにこたえられるようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	居室にはその人らしいつらえがなされ、持参された化粧品がおかれている。月に一度のスキンケアにはいつもと違う笑顔が見られる。季節の装いも、ご家族や、スタッフの支援により準備できている。理美容も計画的に行われている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の持てる力により、配膳下膳お盆拭きなどにご参加いただく。日常的には無いが、園児、学童の訪問時。お彼岸、子供の日など。手作りのおやつを作って楽しんでいる。干し柿の時期には渋柿を頂き、干し柿を作り、季節を感じて頂いている。	外部の業者による調理済み食材の配食が3食分毎日あり、炊飯のみ事業所で行っている。行事の際などは内部での調理やおやつ作りをすることがある。職員も別の時間で個別に食事する。食べたい物や食事の感想などを聞いて伝える機会があり、おやつなどで反映させたり別個で対応することもある。	ホットプレートなどの設備もあり、時には調理レクやおやつレクなどで、利用者とも一緒に取組みながら楽しんで出来るようなものがあったら良いのではないだろうか。

2019自己・外部評価表(事業所名かいせい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	半調理済みの給食サービスを利用、バランスの良い食事を提供している。食事量、水分量を記入、体重の増減にも配慮している。嚥下についても配慮している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを誘導実施している。自立の方も、歯科医師の指導の下、必要なチェックを行っている。ケア用品は不潔にならないように管理している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表にて排せつパターンを把握し、出来るだけトイレで排泄できるよう誘導している。尿路感染症や膀胱炎などにも気を付け、利尿量、におい色などにも気を付けるようにしている。指示があれば、検尿も行う。	各ユニットごとに、全員分を毎日1枚のシートを使って、摂食量、水分と合わせて管理している。自立した方にはあとから聞き取っている。便秘が続いた際などは日報にも転記し処置に繋げる。日々の状況の変化については申し送りなどで共有している。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便の有無、形状の把握をしている。間隔が開けば、看護師より医師へ相談を行う。自立した利用者には、声掛けをし排便状況を報告してもらうようにしている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個別表で、入浴の機会が持てるように工夫している、個別の条件で、二人介助やシャワー浴も適時対応している。医療的に配慮が必要な時は、看護師が対応している。失便などの汚染時には、適時対応し、いつも清潔でいられるように注意している。	1階に2か所の普通浴槽がある。利用者は週2~3回13時~15時の間に入浴しており、何かあった時は随時対応することもある。順番の希望があれば応えている。拒否のあった際にも順番や曜日を変えることで無理強くないく対応する。季節の変わり目で柚子湯などに変えることはある。皮膚観察の場としても行い、看護師と連携をとって処置にもつなげている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室やリビングで、休息が出来るよう、空調や採光、不快なおいにも配慮し快適な空間が作れるよう気を付けている。リネン交換も記録することによって、清潔なものに交換できるようにしている。汚染時は適時交換している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師の管理の元、配薬が行われる。処方の変更などにも速やかに対応していただいているが、誤薬は0ではなく、スタッフ間の連携を充実しなければならぬ。服薬介助時には2人での名前・時間・日付の確認をしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の出来ること、取り組みたいことに取り組みする機会を作っている。自発的な発信がなかなか得られないが、外食レクを企画したり、季節のお菓子を手作りし、ご近所におすそ分けをしたりしている。利用者の趣味である絵手紙教室を、レクレーションに取り入れ、ご家族へ絵手紙をお送りしている。		

2019自己・外部評価表(事業所名かいせい)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	年間行事として企画される外出とは別に、気候の良い時は適時散歩やドライブを行う。小さな時間を見落とさず、外にお誘いしたり、屋上での気分転換を図るように工夫している。	計画外でも臨機応変に少人数での外出を行っており、散歩で周囲を回ったり、商店街で軽食を買うこともある。外出行事としては、外食、花見、菊見物などで年に数回を企画している。屋上や1F玄関わきにベンチもあり、気軽に日光浴も楽しんでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金としてお預かりしている中、外出時にお買い物に行ったり、散歩に途中で小さなお店を見つけ、ふっと立ち寄りお買い物をしたり・・・自由にお金を使えるようにしている。個人的にお金をお持ちの方には、トラブルにならないように、ご家族の理解も得ている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	かかってきた電話は取次、折り返しもしている。携帯をお持ちの方もいるが、制約はしていない。ご自身が書かれた、絵手紙を投函しに行ったりしている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各フロアーの、壁面構成はスタッフと共に作成し、季節感を楽しんでいる。今年度から、ボランティアの画家による、利用者が興味を持ちそうな絵画の展示もあり、絵を見ての会話も盛んになっている。空調やにおいても気を配り、明るく、清潔な環境づくりに配慮している。	2, 3階に1ユニットずつあり、ユニットごとに季節の壁面飾りをつけたり、イベントの飾りつけをしたりと、華やかで季節感のあるものを考えている、気温や湿度などの管理もフロアで管理して行っている。フローリング調の床で、ホールからは廊下を通過して居室が並んでいる。廊下には文化祭の際に使った利用者の紹介文や誕生日などが飾られ、スタンドグラスの電球色の明かりもあいまって柔らかな雰囲気がある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースで、利用者同士会話を楽しんだり、テレビを見たりして楽しんでいる。利用者によっては会話を好まない方もいらっしゃる、個別のお部屋で、過ごされている。時間を見て安否確認など、声掛けをして、孤独にならないように配慮している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はその方のお部屋、安心してゆっくり気兼ねなく過ごせるようにしている。基本的に自由だが、転倒への配慮の為、整理整頓はスタッフと共に行うようにしている。居室のしつらえは利用者の馴れ親しんだ調度品がおかれ、個別の生活が気兼ねなく送れるようにしている。	居室の造りは共通で、入居時に使い慣れたものを持ち込んでもらっている。転倒が多い方の部屋には緩衝材入りのフロアマットを敷いている。介護ベッド、タンスが備え付けられ、テレビや冷蔵庫、仏壇の持ち込みは自由にでき、生け花などの作品もタイミングが合えば飾っている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはそれぞれの名前とスタンドグラスが設置され「自分の部屋」とわかるように工夫されている。スケジュールとして組まれているラジオ体操、北きゆう体操など、体を動かすことを毎日の生活に取り入れている。個別にはルームマーチ、廊下の往復など、機能の維持にも取り組んでいる。		